

2021年4月15日

お客様各位

日産化学株式会社  
農業化学品事業部  
営業本部 営業企画部

週刊新潮 2021年3月25日号 掲載記事

『食べてはいけない「パン」「パスタ」の見分け方 外国産小麦には除草剤成分が』について

平素はラウンドアップマックスロード製品をご愛顧くださり誠にありがとうございます。

さて、週刊新潮の『『食べてはいけない「パン」「パスタ」の見分け方 外国産小麦には除草剤成分が』の記事において、事実誤認とともにラウンドアップ除草剤及びその有効成分グリホサートの安全性に誤解・懸念を生じる内容であったことから、下記の通り株式会社新潮社に対して抗議をいたしましたことをご報告申し上げます。

ラウンドアップ（グリホサート）は、日本、米国、欧州各国を含め多くの国々で、安全性に関するデータが厳正に審査されて登録認可されています。

従いまして、製品ラベルに記載された注意事項を守り、引き続き安心してお使いいただきますようお願い申し上げます。

敬具

記

■抗議内容

- ① 記事本文：「グリホサートの一番の問題は、腸内細菌に影響を及ぼすこと。」

貴紙において腸内細菌に影響を及ぼすと断定している根拠をお示してください。

なお、以下の論文では腸内の細菌の影響に関する文献を徹底的に検討した結果、グリホサートが腸内の細菌に影響を与えないことが示されております。

\*: John L. Vicini et al., 2019, Glyphosate in livestock: feed residues and animal health, Journal of Animal Science, 97,(11) 4509-4518

- ② 記事本文：「グリホサートは脳神経に影響を及ぼすことが分かっており、自閉症や発達障害の原因になるとの指摘もあります」

貴紙において脳神経に影響を及ぼすと断定している根拠をお示してください。

繰り返しとなりますが、日本の内閣府食品安全委員会はグリホサートについて「神経毒性、発がん性、繁殖能に対する影響、催奇形性及び遺伝毒性は認められなかった」と評価しており、米国、カナダ、EU、オーストラリア、ニュージーランドなどの各国規制当局も同様

の見解を示しております。記事中の表現はこのような各国規制当局とはまったく異なる見解です。

③ 記事本文：「まだ小さい子供がグリホサートの含まれる食パンを食べ続けた時の体への影響を考えれば」

食品は厚生労働省において、薬事・食品衛生審議会での審議を経て、残留基準値が設定されています。残留基準値の設定には日本における各食品の摂取量を勘案して、食品を通じた農薬の摂取量が、ADI及びARfDそれぞれ超えないことが確認されています。つまり農薬が残留する食品を長期間にわたり摂取した場合や、農薬が高濃度に残留する食品を短期間に大量に摂取した場合であっても、人の健康を損なうおそれがないことが確認されています。

・ADI（許容一日摂取量）：毎日一生涯にわたって摂取し続けても健康への悪影響がないと推定される一日当たりの摂取量

・ARfD（急性参照用量）：24時間又はそれより短時間の間に摂取しても健康への悪影響がないと推定される量

このADI及びARfDは科学的根拠に基づき、リスク評価機関である食品安全委員会によって評価、設定されています。

なお、上記の設定には一般、幼小児、妊婦、高齢者それぞれの場合について考慮されています。

「農民連食品分析センター」のデータが引用されていますが、検出事例は何れも十分に低い値です。従って、健康上の懸念を示すものではありません。

あたかも子供の体に影響がでるかのような貴紙の内容は、読者に大きな誤解を与えます。

以上